

Economic Indicators

発表日:2021年2月26日(金)

鉱工業生産指数(2021年1月)

～緊急事態宣言の生産への影響は限定的。1-3月期も底堅い推移が続く見込み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
19	1月	▲2.3	0.2	▲1.8	▲0.5	▲0.3	1.4	▲1.7	0.4	▲7.2	▲8.5	2.3	3.6
	2月	1.0	▲0.7	1.2	0.0	0.1	1.3	0.1	1.7	4.3	▲3.5	0.4	1.8
	3月	▲0.5	▲4.1	▲1.1	▲3.9	0.7	0.2	1.1	3.5	▲0.9	▲7.8	▲1.6	▲2.1
	4月	▲0.1	▲0.7	0.7	▲1.1	0.0	1.2	▲1.0	1.9	0.0	▲9.1	2.3	2.9
	5月	1.5	▲1.9	0.8	▲1.6	0.4	1.5	1.3	4.5	2.7	▲3.8	▲1.0	0.1
	6月	▲2.6	▲3.9	▲3.2	▲4.9	0.6	3.0	2.2	6.6	▲2.9	▲5.6	▲2.2	▲2.6
	7月	0.7	0.8	2.5	2.1	▲0.1	2.4	▲0.8	0.8	▲0.2	▲3.1	1.5	3.2
	8月	▲1.7	▲5.5	▲2.0	▲5.0	▲0.1	2.4	2.0	8.7	0.0	▲7.7	▲1.1	▲3.0
	9月	1.9	1.2	1.8	2.1	▲0.9	0.9	▲1.7	1.9	8.1	7.5	1.5	2.7
	10月	▲4.0	▲8.2	▲3.5	▲7.6	0.8	2.5	4.0	9.5	▲10.4	▲13.5	▲5.0	▲5.2
	11月	▲0.6	▲8.5	▲1.4	▲8.0	▲0.5	1.5	1.7	12.3	▲6.5	▲15.9	1.0	▲5.0
	12月	0.2	▲3.7	0.2	▲3.8	0.4	1.2	0.5	6.2	9.2	0.6	▲2.4	▲3.7
20	1月	1.9	▲2.4	0.9	▲3.3	2.1	3.6	▲0.3	9.3	▲1.5	0.3	2.7	▲4.1
	2月	▲0.3	▲5.7	1.0	▲5.4	▲1.7	1.6	▲2.3	9.4	1.0	▲5.7	0.3	▲5.9
	3月	▲3.7	▲5.2	▲5.8	▲6.5	1.9	2.9	8.4	12.6	▲9.1	▲9.3	▲4.6	▲5.8
	4月	▲9.8	▲15.0	▲9.5	▲16.6	▲0.3	2.7	13.6	29.2	1.4	▲7.8	▲11.8	▲19.4
	5月	▲8.9	▲26.3	▲8.9	▲26.8	▲2.6	▲0.5	7.3	40.7	▲9.0	▲21.2	▲3.6	▲23.7
	6月	1.9	▲18.2	4.8	▲16.6	▲2.4	▲3.4	▲7.1	22.5	6.7	▲9.1	4.4	▲14.5
	7月	8.7	▲15.5	6.6	▲16.6	▲1.5	▲4.8	▲8.9	17.6	▲1.0	▲14.4	10.1	▲10.4
	8月	1.0	▲13.8	1.5	▲14.2	▲1.3	▲5.9	▲2.0	13.0	▲8.3	▲21.4	0.0	▲10.1
	9月	3.9	▲9.0	3.9	▲9.8	▲0.5	▲5.7	▲4.4	6.7	2.7	▲22.8	5.3	▲4.0
	10月	4.0	▲3.0	4.9	▲3.0	▲1.8	▲8.1	▲3.3	▲0.9	13.4	▲1.8	2.1	1.6
	11月	▲0.5	▲3.9	▲1.2	▲4.0	▲1.5	▲9.0	▲2.2	▲1.7	3.1	4.0	▲4.3	▲4.4
	12月	▲1.0	▲2.6	▲1.1	▲2.9	1.1	▲8.4	2.0	▲3.1	▲5.1	▲6.4	▲1.4	▲1.3
21	1月	4.2	▲5.3	3.2	▲5.1	▲0.2	▲10.5	▲6.3	▲4.8	8.7	▲1.8	2.8	▲5.4
	2月	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3月	▲6.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)21年2月、3月は、製造工業生産予測調査の数値

〇1月は3か月ぶりの増加、緊急事態宣言の生産への影響は限定的

経済産業省より発表された1月の鉱工業生産指数は前月比+4.2%と市場予測値(コンセンサス:同+3.8%、レンジ:同+0.5%~同+7.5%)を小幅に上回る結果となった。1月は3か月ぶりの増加となり、1月に発令された緊急事態宣言の生産への影響については限定的であったとみられる。

内訳をみると、汎用・業務用機械工業(同+11.7%)、電気・情報通信機械工業(同+7.5%)、生産用機械(同+8.1%)などが高い伸びになったほか、半導体など電子部品・デバイス工業(同+10.5%)は新型コロナ前を大きく上回る水準となった。一方、乗用車の生産は同+0.8%と3か月ぶりに増加に転じたものの、戻りとしては弱く、ペントアップ需要の剥落や半導体不足による影響があった可能性がある。

〇1-3月期は20年10-12月期から鈍化が見込まれるも、生産は底堅い推移に

同時に公表された製造工業生産予測指数では、2月が前月比+2.1%、3月が同▲6.1%となった。2月の予測値は1月時点よりも上方修正されたものの、予測指数の上方バイアスを考慮した経済産業省



の2月の補正試算値は同▲0.4%と小幅な減産が予測されており、1月から伸びは鈍化が見込まれる。内訳をみると、引き続き生産用機械工業（同+9.2%）や電子部品・デバイス工業（同+7.0%）の増産が見込まれる一方、汎用・業務用機械工業（同▲4.4%）や輸送機械工業（同▲2.2%）などが減産に転じる見込みだ。なお、調査時点では2月13日に発生した福島県沖での地震の影響は織り込まれておらず、一部企業の工場稼働停止の影響から、2月の生産は予測指数よりも下振れる可能性があるだろう。

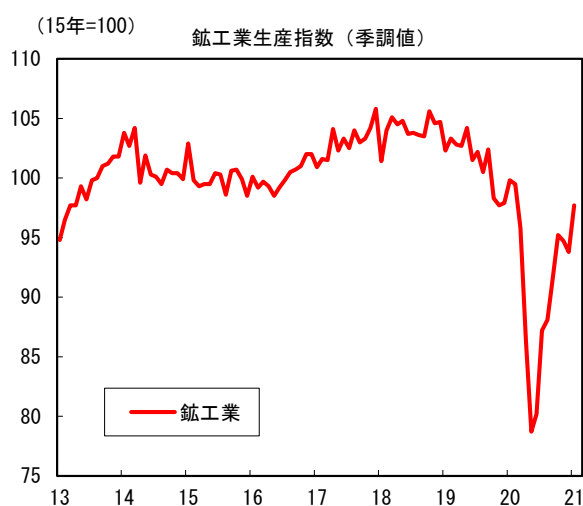
3月は同▲6.1%の大幅減産見込みとなった。生産用機械工業（同▲21.2%）、電子部品・デバイス工業（同▲10.2%）などが大幅な減産見込みとなるなど、11業種すべてで減産が見込まれている。

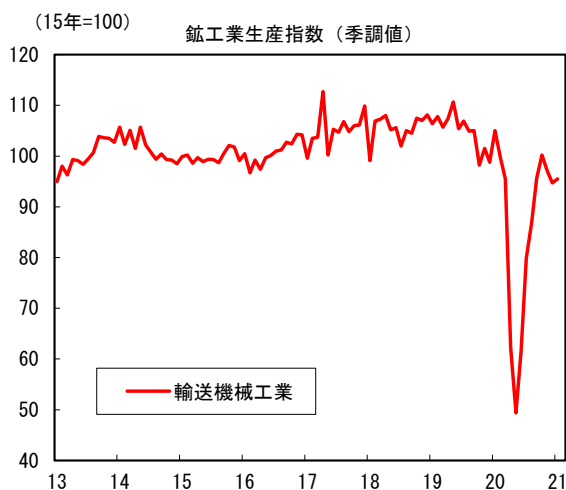
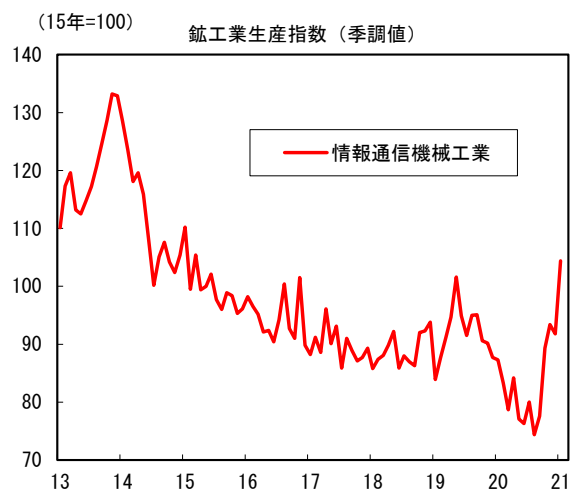
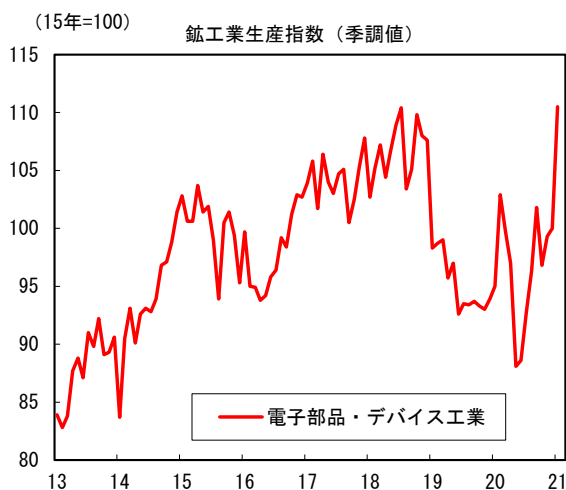
仮に2、3月が予測値通りの結果となると、1-3月期は前期比+2.6%と、3四半期連続の増加となる。工場の稼働停止の影響や半導体不足など下振れのリスクはあるものの、世界経済の回復や半導体関連需要などを受け、今後も生産の底堅い推移は続くと思われる。

○財別の動向

財別でみると、個人消費関連の1月の消費財出荷は前月比+2.8%の増加となった。乗用車やPCなど耐久消費財出荷が同+7.8%と増加したことが影響している。また、非耐久消費財出荷は+0.7%と小幅な増加となった。緊急事態宣言により1-3月期の個人消費は下振れが見込まれるものの、影響はサービスに集中しており、1-3月期の消費財の生産は底堅く推移するとみられる。

設備投資関連の1月の資本財出荷（除く輸送用機械）は前月比+8.7%と増加に転じた。輸出向けが含まれることには注意が必要であるが、国内の設備投資需要は明確に持ち直していると思われる。





(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

